

JAF GP
FUJI
SPRINT
CUP
NOV. 2011

RACING
PRESS
apan

JAF Grand Prix
FUJI SPRINT CUP 2011



JAF Grand Prix FUJI SPRINT CUP 2011 11/11-12-13



**SUPER GT &
Formula NIPPON**

Text 島村元子
Photo 鉄谷康博 / 加藤智光 / 原 勝弘 / 中村佳史



JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2011

JAF GP

GT



日本が誇る富士山の麓を舞台に今年も昨年に続き日本の最高峰のレースと言われるフォーミュラ・ニッポンとスーパーGTの両カテゴリが同時開催となる「JAF Grand Prix SUPER GT & Formula NIPPON FUJI SPRINT CUP 2011」が11月11日から三日間にわたって開催された。この大会には選手の出身地から東西対抗戦や、さらには往年のドライバーがワンメイクで戦うレジェンドカップ等が組み込まれ、今年最後の大会としても見応えのあるレースとなった。



Formula NIPPON



予選でポールを獲得したオリベイラは、決勝でも好スタートを決め、オープニングラップが終わると石浦宏明とのマッチレースとなり結局、最後までトップを守りきりオリベイラが優勝を飾り、石浦が2位でチェッカーを受けた。

[決勝結果]

優勝	1	TEAM IMPUL	ジョアオ・バオロ・デ・オリベイラ
2位	8	Team KYGNUS SUNOCO	石浦宏明
3位	37	PETRONAS TEAM TOM'S	中嶋一貴



SUPER GT 500



RACE1

[RACE1 決勝結果]

- 優勝 46 Road MOLA GT-R ロニー・クインタレッリ
- 2位 12 カルソニック IMPUL GT-R J-P・デ・オリベイラ
- 3位 35 D'STATION KeePer SC430 脇阪寿一



RACE2

- [RACE2 決勝結果]
- 優勝 100 RAYBRIG HSV-010 伊沢拓也
 - 2位 46 S Road MOLA GT-R 柳田真孝
 - 3位 17 KEIHIN HSV-010 金石年弘



SUPER GT 300



RACE1

[RACE1 決勝結果]
 優勝 4 初音ミクグッドスマイルBMW 谷口信輝
 2位 33 HANKOOK PORSCHE 藤井誠暢
 3位 43 ARTA Garaiya 松浦孝亮



RACE2

[RACE2 決勝結果]
 優勝 4 初音ミクグッドスマイルBMW 番場 琢
 2位 33 HANKOOK PORSCHE 影山正美
 3位 11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP458 田中哲也



LEGEND CUP

昨年ユーノスロードスターで行われたモータースポーツファン必見のレースがレジェンドカップ。今年はハイブリッドスポーツカーのCR-Zを18台集結させ激しい攻防戦をお披露目した。往年のドライバーによるバトルは大観衆を魅了し、粘りの走りで優勝を飾ったのは長谷見昌弘さん。大ベテランの高橋国光さん、元F1ドライバーの中嶋悟さんが続いてフィニッシュした。



高橋国光



長谷見昌弘



中嶋 悟



舘 信秀



土屋圭市



関谷正徳



鈴木亜久利



近藤真彦



[レジェンドカップ決勝]
 優勝 3 長谷見昌弘
 2位 100 高橋国光
 3位 32 中嶋 悟



THE FACE

CLOSE-UP

Andore
LOTTERER
アンドレ・ロッター

Text by M.Shimamura

Photo: Y.Tetsutani

悲願のタイトル奪取に成功 日本で開花したジャーマンドライバー

アンドレ・ロッター、30歳。2011年のシーズンは、レーシングドライバーとして最高のシーズンを過ごしたといえよう。悲願だった全日本選手権フォーミュラ・ニッポンで自身初めてとなるドライバーズ・チャンピオンを奪取。さらにこれに先立つこと6月には、世界三大レースのひとつで耐久レースの頂でもある「ル・マン24時間レース」でアウディR18を駆り、見事総合優勝を果たしている。

ロッターの来日は2003年、それまでは欧州のフォーミュラレースで活躍し、2000年からはF1ジャガーチームでテストドライバーを務めた経験を持つ。輝かしい経歴をひっさげ、日本へ。そして最初に所属したチームは、元F1ドライバーの中嶋悟氏が率いる名門NAKAMIMA RACING。申し分のない体制から始まった日本でのレース活動だった。周りの期待に応えるかのように、持ち前のセンスの良さ、マシンコントロールの上手さを早速発揮、フォーミュラ・ニッポン参戦2年目にして、ランキング2位の結果を残し、タイトル獲得まであと一歩のところまで詰め寄った。

だが、そこからの道のりが思った以上に長かった。上位には必ずといっていいほど顔を揃えるが、「トップ」が獲れない。優勝はするものの、一方で速さの象徴であるポールポジションを僅差で逃すことは多々。決して粘り強さが足りないわけではないが、なぜか巡り合わせが悪く、チャンピオン候補にはなるものの、チャンピオン獲得のための「何か」が足りなかった。

この悔しさを払拭したい、そして現況打破を願ったロッターは2006年TEAM TOM'Sへと移籍。チームはもちろんのこと、扱うクルマもホンダからトヨタへとスイッチ。そして新天地で出会った脇阪寿一との出会いが、彼をまた一層成長させた。先輩格の脇阪は互いを高めつつ、加えてロッターが気持ちよくレースができるよう、チームでの調和を強く意識した。こうして絶妙な役割分担が成立したチームでさらなる強さを身につけ、移籍初年度にチャンピオンを獲得する。今シーズンにおけるFNでのタイトル獲得は、いわば彼自身の日本における集大成だったともいえる。世界に名を馳せる選手となった今、今後の活躍に要注目だ。

【ドライバープロフィール】

1981年11月19日、ドイツ出身。父がレーシングチームのマネージャーをしていたこともあり、幼少からレーシングカートなどに親しむ。17歳でBMW ADACフォーミュラシリーズでチャンピオン、翌年にはその上位クラスでも王者を獲得。19歳にしてF1ジャガーレーシングのテスト&リザーブドライバーに抜擢された。2003年来日、SUPER GTとフォーミュラ・ニッポンに参戦を開始する。チーム移籍した2006年には脇阪寿一とともに、TOM'Sでシリーズチャンピオンを獲得。さらに09年も同コンビでタイトルを手にした。今季はF1帰りの中嶋一貴との初コンビでランキング8位に、スタイトル獲得に闘志を燃やす。

